Ⅱ．分担研究報告

高校生と大学生における結婚、挙児希望に関する意識調査－高校生と大学生で異なるか？－

研究分担者　西尾　彰泰（岐阜大学保健管理センター）
研究協力者　堀田　亮（岐阜大学保健管理センター）
研究協力者　佐渡　忠洋（常葉大学健康プロデュース学部）

高校生および大学生の結婚･出産に関する知識･意識を知るために、本研究において、平成25 年度に実施した質問紙調査の結果を分析した。その結果、高校生･大学生において、結婚や出産を忌避する傾向があるわけではないことがわかった。また、高校生よりも大学生のほうが結婚･挙児を希望する者の割合が男女ともに高く、少なくともこの時期においては、年齢が上がるにつれ、結婚･挙児希望が下がるわけではないことがわかった。不妊、妊孕力、不妊治療に関する知識は、男女問わずいずれ年代でも低いが、高校生より大学生、男性より女性の方が、知識を有していると人の割合は高いことが示された。結婚･出産希望に影響を与える各種背景について分析したところ、高校生においては、家庭の経済力の影響を強く受ける一方、大学生においては、将来への経済不安の影響が強くなることがわかった。大学生では、健康状態、健康への関心が高いほど、結婚･出産を希望する者の割合が高くなるという傾向が見られた。

A. 研究目的

近年、我が国では急速に少子化が進行している。厚生労働省人口動態統計月報年計 [1]によれば、15 歳～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値である合計特殊出生率は、1974 年、自然増加から自然減少に移行する境である 2.07 を下回ったのち下降を続け、1989 年には史上最低の 1.57 を記録した。この「1.57」ショック以降、厚生省（当時）は「これからの家庭と子育てに関する懇談会」を設置し、出生率を回復するための様々な支援策を講じたが、合計特殊出生率はさらに低下し、2013 年においても 1.43 と低迷が続いている。この背景にある原因のひとつとして、婚姻率の低下と晩婚化が考えられる。婚姻率（人口千人対）は、昭和 40 年代に 10.0 以上であったが、その後は低下傾向となり、2013 年には 5.3 まで低下している。また、初婚の妻の平均年齢は、1971 年の 24 歳から上昇を続け、2012 年には 29.2 歳にまで至っている。これに伴い、少子化のもうひとつの原因と考えられる晩産化も進み、第1子出生時の母親の平均年齢は、平成 23 年には、ついに 30 歳を超えた。晩婚化の進行は妊娠適正年齢を逃すことによる不妊を、また晩産化の進行は母体の高齢化によるハイリスク妊娠の増加をもたらす要因の一つとなり、女性や新生児の健康を損ねかねない。これらの少子化、晩産化の背景には、社会構造、労働条件、経済状況、個人の価値観など多くの要素が複雑に絡んでいるため、原因はひとつではなく、その対策も様々なアプローチが考えられるだろう。ただ、若い男女が早期から妊娠時期やキャリアデザインなどの人生設計について考えるための機会が提供されていたならば違う選択もあったかもしれないと考えられることもあり、若い男女に対して妊娠･出産やライフプランに関する教育を行うことが有効ではないかと期待される。そこで、どのような教育内容が必要かつ有効であるかを考えるために、高校生と大学生の結婚･出産に関する意識･知識と、それに影響を与える要因について調査･解析を行ったので報告する。

B. 研究方法

協力の得られた 11 校の大学生 1,189 人と、6 校の高校生 1,866 人に対して、授業時間等に、結婚･出産の意識に関する質問と、性別･年齢、家族構成、将来のキャリアデザインなどに関する自記式による質問調査を行った。質問票は無記名で、その場で回収した。調査の結果は、JMP ver.10® (SAS, 東京)を用いて交差分析により解析した。尚、本解析は、平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金･政策科学総合研究事業「若い男女の結婚･妊娠時期計画支援に関するプロモーションプログラムの開発に関する研究」で得られたデータの一部を使用した。

(倫理面への配慮)

調査に際して、「回答は成績や評価などと全く関係なく、回答したくない者は回答用紙を提出しなくてもよく、それにより不利益を被ることがないこと」が伝えられた。岐阜大学大学院医学系研究科倫理審査委員会の承認(承認番号 25-268)を得ている。

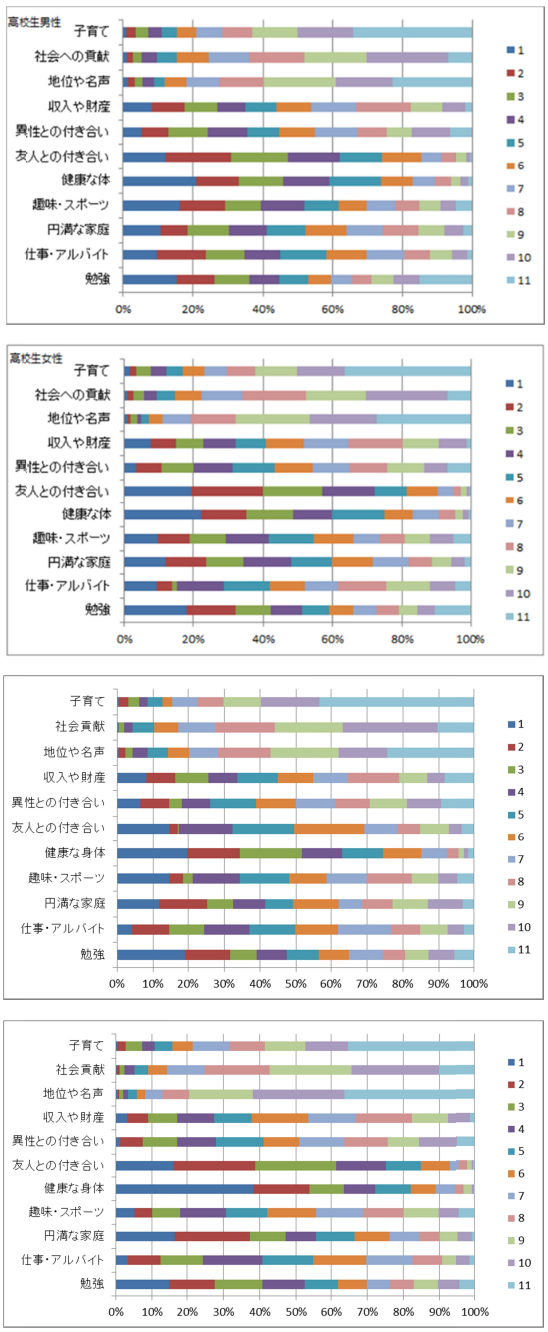
C. 研究結果

調査期間は 2014 年 1 月～2 月の 2 ヶ月間で、対象者の性別内訳は、高校生(男性 1,108 人、女性 727 人、無回答 31 人)、大学生(男性 267 人、女性 914 人、無回答 8 人)であった。また、平均年齢は高校生で 16.5 ± 0.83 歳(15 歳～24 歳)、大学生で 19.9 ± 1.81 (17 歳～46 歳)であった。解析に際しては、設問毎に無効回答を除外したが、ひとつでも無効回答のある者の全ての回答を除外することはしなかった。

1. 人生の中で重視すること

人生の中で重視することを、勉強、仕事、家庭、趣味、健康、友人、恋愛、収入、地位･名声、社会貢献、子育ての 11 項目の中から順序づけしてもらったころ、「子育て」は、男子学生、女子学生ともに 11 番目と最も関心が低いことがわかった。反対に、男子学生、女子学生ともに「健康な身体」に対する関心が最も高いことがわかった(図 1)。

図1 質問「現在のあなたが、人生の中で重視することについて教えてください。以下にあげた項目について、今のあなたが大切だと思う順番に順位をつけてください」に対する回答 1～11 の割合(図は高校生男性、高校生女性、大学生男性、大学生女性の順)



2. 結婚希望、挙児希望、欲しい子供の人数、初産の年齢

結婚希望に関する質問で、「いずれ結婚するつもり」、「一生結婚するつもりはない」、「考えたことがない」の3つから選択回答させたところ、高校生では、男性の72%、女性の81%、大学生では男性の 78%、女性の 91%が「いずれ結婚する」を選択し、「一生結婚するつもりはない」と答えた者はいずれの集団においても 5%以下であった(図2)。結婚を希望する年齢の平均は、高校生においては、男性 25.0±4.0、女性 23.8±2.2 歳、大学生においては、男性 26.8±2.8、女性 25.9±1.9 歳であった。挙児希望に関して、「子供は欲しい」、「子供は欲しくない」の2つから選択させたところ、高校生では、男性の84%、女性の88%、大学生では、男性の 86%、女性の 93%が挙児を希望していた(図3)。何歳までに第1子を持ちたいかという質問に関しては、高校生と大学生で大きな違いがあった。高校生では、男性の 30.2%、女性の 50.4%が 25 歳までに産みたいと答えたが、大学生では、男性 6.6%、女性 14.3%と少なかった。男子大学生では、(自分が) 35 歳までに子供を持ちたいと答えた者が 21.9%おり、高校生に比べると大学生の方が晩産化に移行する傾向がみられた(図4)。

図2:質問「あなたの結婚に対する考えを教えてください。自分の一生を通じて考えた場合、最もあてはまるものひとつを○で囲んでください」

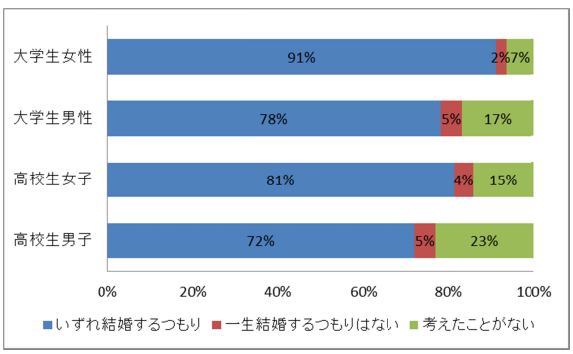


図3:質問「あなたは、将来子供が欲しいと思っていますか？現在の気持ちに近い方のいずれかを○で囲んでください」

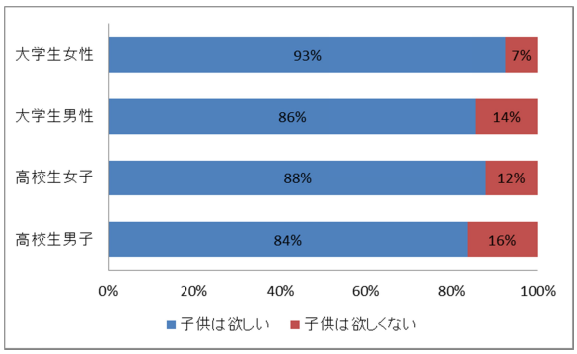
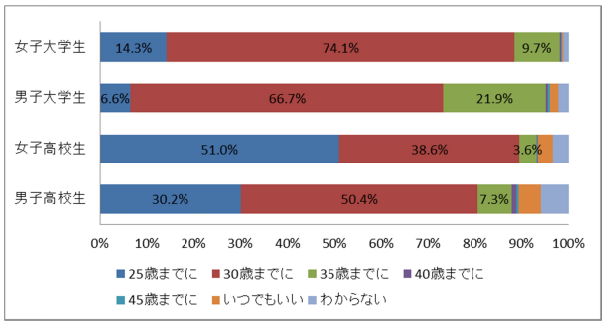


図4:(子供が欲しいと答えた人のみ回答) 質問「自分が何歳までに最初の子供を持ちたいと思っていますか？現在の気持ちに最も近いものひとつを○で囲んでください。(男性は妻ではなく自分の年齢で選んでください)」

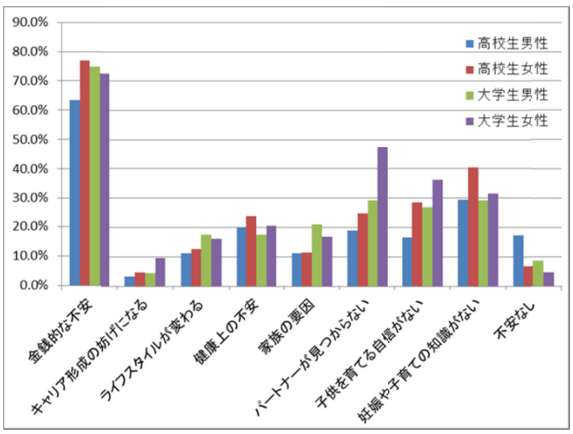


3. 将来の子育てに関する不安

子供を持つことに対する不安について、「金銭的な不安」「キャリア形成の妨げになる」「ライフスタイルが変わってしまう」「健康上の不安」「家族の要因による不安」「パートナーが見つからない不安」「子供を育てる自信がない」「妊娠や子育てへの知識や情報の不足」の中から複数回答で選択させたところ、高校生・大学生の男女ともに圧倒的に金銭的不安をあげるものが多かった(図5)。次に、「子供を育てる自信がない」、「妊娠や子育てへの知識や情報の不足」をあげるものが全体的に多かった。また、大学生の女性においては、目立って「パートナーが見つからない」

という不安が強かった。

図5：質問「将来、あなたが子供を欲しいと思ったときに、もし不安があるとしたらどのようなことですか？現在、想像できる範囲で答えてください。（あてはまるもの、すべてを○で囲んでください）」



4.　不妊、妊孕力、不妊治療に関する知識

「子供を望むカップルが避妊していないのに、2年以上妊娠しないこと」を不妊の定義であると知っていたのは、高校生で、男性 20.7%、女性 33.0%、大学生では、男性で 26.2%、女性 36.2%であった（図6）。「女性の妊娠する能力が 30 歳を過ぎた頃から少しずつ低下すること」を、「よく知っていた」、「少しは知っていた」、「全く知らなかった」の3段階から選択させたところ、前者について「よく知っていた」と答えたのは、高校生では、男性 13.7%、女性 22.3%であり、大学生では、男性 30.0%、女性 41.9%であった。高校生の男性では、「全く知らなかった」と答えた者が 36.1%いたが、女性では「全く知らなかった」と答えたものは男性より少なく、大学生ではより少なかった（図7）。「不妊治療を受けていても女性の妊娠する能力は年齢と共に少しずつ低下すること」についても、同様に「よく知っていた」、「少しは知っていた」、「全く知らなかった」の3段階から選択させたところ、「よく知っていた」と答えたのは、高校生で、男性の 8.0%、女性の 14.1%、大学生で、男性の 19.4%、女性の 31.0%であった。前問と同様に、男性よりも女性が、高校生よりも大学生のほうが、知っていると答えた者が多かった（図8）。

図6：質問「子供を希望するカップルが避妊をしていないのに2年以上妊娠しない場合、不妊と呼ぶことをあなたは知っていましたか？（どちらかひとつを○で囲んでください）」

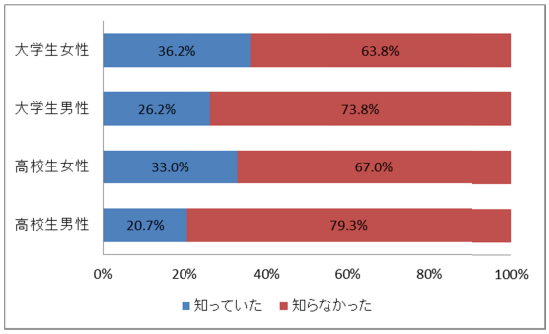


図7：質問「女性の妊娠する能力は、30歳を過ぎた頃から少しずつ低下することをあなたは知っていましたか？（いずれかのうち、ひとつを○で囲んでください）」

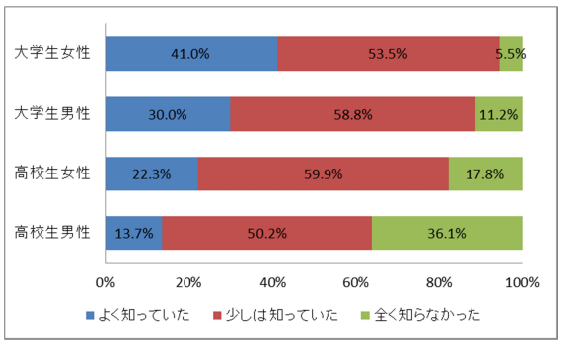
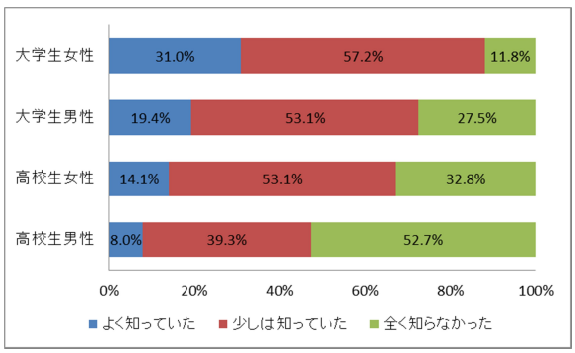


図8：質問「不妊治療を受けていても、女性の妊娠する能力は年齢と共に少しずつ低くなることをあなたは知っていましたか？（いずれかのうち、ひとつを○で囲んでください）」



5. 結婚、挙児希望に影響を与える要素

表1、表2に、それぞれ高校生と大学生における結婚希望と、「将来への経済不安」、「実家の経済力」、「現在の健康状態」、「健康への関心」、「主食・主菜・副菜の揃った食事の頻度」との関係を、表3、表4に、高校生、大学生における挙児希望と、上記項目に加えて、「結婚後の就労意識」との関係を示す。尚、アンケートの回答時は、「将来への経済不安」、「実家の経済力」「健康への関心」の質問に対する回答は5段階であるが、解析時には上位2段階と中位、下位2段階の3群に分けた。例えば、「(実家の経済力が)上」と「中の上」を「実家経済力高い」群、「中の中」を「実家経済力普通」群、「中の下」と「下」を「実家経済力低い」群と3群間で集計し、分析を行った。また、結婚の希望については、「わからない」を含む3つの回答から1つを選択する形式であったため、解析時には「わからない」と回答した者は除外している。一方で、挙児希望に関する質問は、挙児を「希望する」と「希望しない」の2つの回答から1つを選択させる形式であった。オッズ比については、経済不安など概念的に順序があるものについては、中位の集団を 1 として、上位と下位の群の頻度比率を算出したが、仕事と家庭に関する質問については、「結婚して仕事を変えない」を選択した群を 1 として他群の比率を算出した。また、本解析については、関係する設問の回答にひとつでも無効回答がある場合は、その対象のデータを全て除外して解析した(有効回答率:高校生 1338 人／1858 人, 72.0%、大学生 1023 人／1181 人, 86.7%)。

高校生と大学生では、参加者の男女比が異なるために単純に比較することはできないが、以下のような傾向が見られた。まず、経済不安を感じているかという質問に対して「どちらとも言えない」(普通)と答えた高校生において、結婚を希望する者の割合が最も高かったが、大学生においては、経済不安の強さと結婚を希望する者の割合の間には負の相関が見られた。また、実家の経済力が「上」または「中の上」と答えた者は、高校生、大学生ともに、結婚を希望する学生が多く、「下」または「中の下」と答えた学生は、結婚を希望する学生が少なく、実家経済力と結婚希望の間には正の相関があった。次に、現在の健康状態が良いと答えた高校生と、普通と答えた高校生においては、結婚を希望する者の比率に差は認められなかったが、健康状態が悪いと回答した高校生においては、結婚を希望する者が少なくなる傾向がみられた。自分の健康に、「あまり関心がない」、あるいは「全く関心がない」と答えた高校生は、「普通」と回答した者と比べて、結婚を希望する者が有意に少なかった。逆に、大学生においては、健康状態、健康への関心と結婚を希望する者の割合には正の相関が見られた。食生活に関して、高校生では特別な傾向は見られなかったが、大学生においては、主食・主菜・副菜が揃った食事を取る回数が 1 日 1 回未満の群で、結婚を希望する者の割合が高い傾向が見られた。

挙児希望と経済不安の関連では、経済不安に対して「どちらでもない」と答えた高校生(中位群)は、子供を持ちたい者の割合が高く、経済不安が強い高校生は、経済不安は普通と回答した高校生よりも、子供を希望する者の比率が有意に低かった。大学生においては、経済不安の強さと子供を持ちたい者の割合は負の相関を示した。また、実家の経済力は、高校生・大学生ともに、子供を希望する者の割合に正の相関を示した。現在の健康状態、自身の健康への関心は、高校生・大学生ともに、挙児希望に対して正の相関関係を示した。食事習慣と挙児希望の関係については、高校生・大学生ともに、一定の傾向は見られなかった。「結婚を契機に働き方を変えたいと思いますか」という質問に対して、高校生・

大学生ともに「家庭を優先したい」と答えた者において、挙児を希望する者の割合が高かった。しかし、「仕事を辞める」と答えた群は、高校生で挙児希望の割合が上がり、大学生では挙児希望の割合が下がった。高校生では、結婚後の働き方について「わからない」と答えた者は、「仕事を変えない」と答えた者より、挙児希望の者の割合が有意に低かった。

表１：結婚の希望と、参加者の各種背景との関係（高校生）

			人数		割合(%)		オッズ比		
			結婚したい	結婚したくない	結婚したい	結婚したくない	OR	95%CI	p
経済関連	経済不安	弱い	220	12	94.8	5.2	0.746	0.345-1.615	0.539
		普通	344	14	96.1	3.9	1		
		強い	698	50	93.3	6.7	0.568	0.312-1.034	0.073
	実家経済力	高い	185	4	97.9	2.1	2.607	0.957-7.086	0.08
		普通	692	39	94.7	5.3	1		
		低い	385	33	92.1	7.9	0.658	0.408-1.059	0.1
健康関連	健康状態	良い	816	46	94.7	5.3	0.911	0.489-1.699	0.875
		普通	253	13	95.1	4.9	1		
		悪い	193	17	91.9	8.1	0.583	0.281-1.214	0.184
	健康への関心	高い	822	47	94.6	5.4	0.548	0.269-1.118	0.116
		普通	287	9	97.0	3.0	1		
		低い	153	20	88.4	11.6	0.24	0.109-0.530	<0.001**
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	597	31	95.1	4.9	1.136	0.642-2.011	0.657
		1日1回	339	20	94.4	5.6	1		
		1日1回未満	326	25	92.9	7.1	0.769	0.422-1.402	0.443

**p < 0.01

表２：結婚の希望と、参加者の各種背景との関係（大学生）

			人数		割合(%)		オッズ比		
			結婚したい	結婚したくない	結婚したい	結婚したくない	OR	95%CI	p
経済関連	経済不安	弱い	279	6	97.3	2.7	1.704	0.591-4.914	0.397
		普通	191	7	97.1	2.9	1		
		強い	520	20	95.6	4.4	0.953	0.406-2.237	1
	実家経済力	高い	220	6	97.2	2.8	1.085	0.428-2.743	1
		普通	507	15	96.4	3.6	1		
		低い	263	12	95.3	4.7	0.648	0.304-1.382	0.304
健康関連	健康状態	良い	666	19	97.2	2.8	1.29	0.523-3.191	0.61
		普通	163	6	96.4	3.6	1		
		悪い	161	8	95.3	4.7	0.741	0.262-2.093	0.786
	健康への関心	高い	815	17	98.0	2.0	3.079	1.282-7.410	0.02*
		普通	109	7	94.0	6.0	1		
		低い	66	9	88.0	12.0	0.471	0.173-1.282	0.183
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	236	10	95.9	4.1	1.12	0.492-2.547	0.834
		1日1回	274	13	95.5	4.5	1		
		1日1回未満	480	10	98.0	2.0	2.277	1.006-5.153	0.077

* p < 0.05

表３：出産の希望と、参加者の各種背景との関係（高校生）

			人数		割合(%)		オッズ比		
			子供を持ちたい	子供を持ちたくない	子供を持ちたい	子供を持ちたくない	OR	95%CI	p
経済関連	経済不安	弱い	210	22	90.5	9.5	0.565	0.30.-1.052	0.1
		普通	338	20	94.4	5.6	1		
		強い	674	74	90.1	9.9	0.539	0.325-0.894	0.016*
	実家経済力	高い	180	9	95.2	4.8	1.919	0.949-3.876	0.071
		普通	667	64	91.2	8.8	1		
		低い	375	43	89.7	10.3	0.837	0.558-1.254	0.4
健康関連	健康状態	良い	799	63	92.7	7.3	1.258	0.772-2.049	0.359
		普通	242	24	91.0	9.0	1		
		悪い	181	29	86.2	13.8	0.619	0.351-1.093	0.108
	健康への関心	高い	796	73	91.6	8.4	0.748	0.446-1.256	0.319
		普通	277	19	93.6	6.4	1		
		低い	149	24	86.1	13.9	0.426	0.228-0.797	0.012*
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	577	51	91.9	8.1	0.994	0.620-1.594	1
		1日1回	330	29	91.9	8.1	1		
		1日1回未満	315	36	89.7	10.3	0.773	0.495-1.207	0.292
仕事と家庭	結婚して仕事を･･･	変えない	629	54	92.1	7.9	1		
		家庭優先	428	22	95.1	4.9	1.67	1.007-2.770	0.052
		辞める	18	1	94.7	5.3	1.545	0.257-9.222	1
		わからない	147	39	79.0	21.0	0.324	0.207-0.506	<0.001**

*p <0.05　**p < 0.01

表4：出産の希望と、参加者の各種背景との関係（大学生）

			人数		割合(%)		オッズ比		
			子供を持ちたい	子供を持ちたくない	子供を持ちたい	子供を持ちたくない	OR	95%CI	p
経済関連	経済不安	弱い	273	12	95.8	4.2	1.21	0.524-2.798	0.664
		普通	188	10	94.9	5.1	1		
		強い	506	34	93.7	6.3	0.792	0.389-1.613	0.602
	実家経済力	高い	220	6	97.3	2.7	2	0.835-4.782	0.173
		普通	495	27	94.8	5.2	1		
		低い	252	23	91.6	8.4	0.598	0.338-1.057	0.091
健康関連	健康状態	良い	653	32	95.3	4.7	1.148	0.546-2.417	0.69
		普通	160	9	94.7	5.3	1		
		悪い	154	15	91.1	8.9	0.578	0.251-1.332	0.213
	健康への関心	高い	799	33	96.0	4.0	2.794	1.415-5.522	0.008*
		普通	104	12	89.7	10.3	1		
		低い	64	11	85.3	14.7	0.671	0.285-1.581	0.373
食生活	主食主菜副菜の揃った食事	1日2回	232	14	94.3	5.7	1.175	0.583-2.366	0.721
		1日1回	268	19	93.4	6.6	1		
		1日1回未満	467	23	95.3	4.7	1.439	0.776-2.670	0.254
仕事と家庭	結婚して仕事を･･･	変えない	442	32	93.2	6.8	1		
		家庭優先	416	14	96.7	3.3	2.151	1.142-4.049	0.022*
		辞める	26	4	86.7	13.3	0.471	0.161-1.364	0.259
		わからない	83	6	93.3	6.7	1.002	0.416-2.406	1

* p <0.05　**p < 0.01

D. 考察

晩婚化少子化が進む我が国においても、高校生･大学生の意識は、結婚･挙児を希望する者が大多数であり、結婚や出産を避ける傾向があるわけではないことが、今回の調査でわかった。また、高校生よりも大学生のほうが、若干ではあるが結婚･挙児を希望する者の割合が男女ともに高く、少なくともこの時期においては、年齢が上がるにつれ、結婚･挙児希望が下がるわけではないことがわかった。結婚をしたい年齢については、高校生と大学生の間には大きな違いは無く、男女ともに 25 歳前後であったが、はじめての子供を持ちたい年齢については、大学生の方が高い年齢であり、挙児を先延ばしする傾向がみられた。特に男子大学生において、その傾向が強く示された。男性においては、晩産化への意識傾向は、大学生の時期から出現するのかも知れない。なぜ、結婚を先延ばしするわけでもないのに、挙児を先延ばしする傾向があらわれるのかについて、さらなる詳細な調査検討が必要と思われる。今回の調査では、高校生･大学生ともに、結婚や挙児を希望するものが大多数である一方、自分の人生における「子育て」の優先度は、際だって低いことが示された。これは、高校生･大学生共に、将来の子育てに関するイメージが十分に持てていないことが原因ではないかと推察される。また、多くの高校生･大学生が、将来の「子育て」に対して不安を抱いており、不安の要素として経済的な不安をあげるものが最も多かった。次に、知識や情報不足から来る不安をあげる者が多かったが、これは高校生よりも大学生の方が多かった。

高校生･大学生における、不妊、妊孕力、不妊治療に関する知識はおしなべて低いが、いずれも、高校生より大学生、男性より女性の方が、知識を有していると思われる人数の割合は比較的高いことが示された。高校生では、自分が 30 歳までに最初の子供を出産すると答えた者が 84.2%であることから、大多数の高校生が晩産に至るイメージを持っていないと考えられる。したがって、高校生の時点で、不妊や妊孕力の低下について教えることは、あまり効果がないと推察され、大学生や、社会人になってからの方が、これらの知識や情報を伝える時期としては適切であろう。

結婚希望に影響を与える各種背景について分析したところ、高校生においては、実家経済力の影響を強く受ける一方、大学生においては、将来への経済不安の影響が強くなることがわかった。親元にいることが多い高校生と、自立の途上にある大学生という立場の違いを反映しているものと思われるが、いずれにせよ、経済的背景は、結婚を希望する者の割合に影響を与えていることが示された。健康関連の質問において、高校生では一定の傾向を見いだすことはできないが、大学生では、健康状態、健康への関心が高いほど、結婚を希望する者の割合が高くなるという傾向が見られた。

一方、挙児希望に影響を与える各種背景について分析したところ、結婚希望と同様に、高校生では、実家経済力の影響を強く受け、大学生では、将来への経済不安、実家経済力の影響を強く受けることがわかった。健康関連と挙児希望の関係においても、大学生の方が、健康状態や健康への関心と挙児希望の間に関連性が見いだされた。

E. 結論

若者に対して、結婚や出産に対して前向きな気持ちを持ってもらおうというアプローチを取るとするならば、高校生よりも、結婚や挙児への意識と、自身の経済や健康の関連性がはっきりしてくる大学生の時期に行うことが有効であると考えられる。また、その際には、今後起こりうる経済的な不安を

適切に受け止める力や、自らの身体に起こる変化に対する正確な知識、将来のキャリアデザインを描くための知識などを提供する全人的な教育と組み合わせて実施する工夫が有用であろうと考えられた。

【参考文献】

1. 厚生労働省ホームページ平成 25 年人口動態統計月報年計（概数）の概況
(http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai12/)

F. 研究発表

1. 論文発表

1) 高校生を対象とした結婚、出産についての意識調査－保健の授業で何を教えるべきか？ 西尾彰泰，堀田亮，佐渡忠洋，吉川弘明，足立由美，松浦賢長，林芙美，山本眞由美. 東海学校保健研究：Tokai Journal of School Health」；第 39 巻 1 号（ページ未定）
2) 大学生における結婚、出産についての意識調査－大学の健康教育で何を教えるべきか？ 西尾彰泰、堀田亮、佐渡忠洋、吉川弘明、足立由美、松浦賢長、猪飼周平、高田昌代、林芙美、加納亜紀、磯村有希、山本眞由美. CAMPUS HEALTH; 52(1), 154-156.

2. 学会発表

1) 高校生を対象とした結婚、出産についての意識調査－保健の授業で何を教えるべきか？-、西尾彰泰、堀田亮、佐渡忠洋、吉川弘明、足立由美、松浦賢長、林芙美、山本眞由美. 第 57 回東海学校保健学会総会 於 じゅうろくプラザ（岐阜） 2014.9.6
2) 大学生における結婚、出産についての意識調査－大学の健康教育で何を教えるべきか？西尾彰泰、堀田亮、佐渡忠洋、吉川弘明、足立由美、松浦賢長、猪飼周平、高田昌代、林芙美、加納亜紀、磯村有希、山本眞由美. 第 52 回全国大学保健管理研究集会 於 慶應大学三田キャンパス西校舎ホール 2014.9.3～4

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし